

子どもたちが考えた 伊野の将来像

たくさん遊びに来てもらえる町

伊野の問題点

空き家が多い。外から遊びに来る人がいない

提案 1泊2日の山海旅行プラン

①1日目

アスレチック体験（地元の山を切り開いたときの木を利用してつくる）

②1日目夜

海のそばの民宿（空き家活用）で海鮮丼のおもてなし&古老から民話を聞く

③2日目

マリレジャー（ダイビング、ヨットなど）

広い世代がいる生き生きとした町

伊野の問題点

人口減少、少子高齢化です！

提案

①古民家カフェをつくり若者をひきつける

②移住する環境づくり

③「いのぼーる」などキャラクターを利用して町を盛りあげる

イベントを通していろいろな世代が ふれあえる町

伊野の問題点

広い世代と活動するイベントが少ない

提案

①いろいろなイベント（昔遊びなど）

②特産品をキャラクター化して売る。

伊野のお酒「さーちゃん」やしぼ入りチマキの「しぼたん」

③伝統的な物や野菜を作ったり植えたりする

杜氏さんがいっぱいいた町なので、お酒をつくって伊野の文化を復活させる

「町の幸福論」を考える伊野小6年生 著者山崎亮さんを迎えてプレゼン

6年生国語教科書に「町の幸福論」という文章のっています。地域の問題点をさぐり、地域の将来像を描き、どんな取組をしたらよいかを考えます。そして自分たちの考えを他者に伝えるプレゼンテーションを行う学習です。

著者の山崎亮さんを迎え、12月4日、6年生の学習発表が行われました。今年で3年連続3回目です。子どもたちが一生懸命考えた提案に山崎さんも本気でこたえました。するどいつコミに子どもたちは「さされた〜！」と悲鳴をあげていました。来年の逆襲なるかなあ？

伊野地区自治協会 多久和祥司



▲子どもたちの提案にコメントする山崎さん

子どもたちVS山崎亮さん 本気対決 イケアに飽きた都会暮らしの人たちのうち100人に1人が伊野にや って来るためには

都会の人たちが「飽きている」ことに注目 ライバルはいっぱい

アスレチックの遊具を地元の山で切った木で作るのは良いですね。外国から輸入した木材を使えば、お金は外国に流れる。地元の木を使えば地元にお金が入るからです。

でも、アスレチックはよそこにもある。ライバルは多い。マリレジャーだってそうです。「ハワイの方が良くねえ？」と言われるかもしれないね。それに指導者を育てるのにも時間がかかる。

経験をつんだ伊野の人をさがす

でも、漁業体験はいい。50年も60年も漁業をやってきた人たちでしょ。その人たちの力は大きいですよ。これは伊野の魅力・強みです。

みなさんは、イケアやスタバに行ってみたいですか？ 都会の人たちは、こういうのに飽きています。漁業体験に魅力を感じて、これらの人びとのうち100人に1人、1,000人に1人が伊野にやって来たらどれくらいの数になるでしょう。毎年1万人の人が伊野にやってきたら、何人が伊野に定住しようと思うのでしょうか。

伊野にやって来てほしいのはどんな人たち？

イノシシをデザインした伊野のキャラクター「イノボール」を売り出すという提案。子どもは「かわいい」と思うけど、農家にとっては「にくい」敵。見え方のちがいはどこからくるんでしょう？ キャラクターは全国にいっぱいあるよ。「くまもん」や「ひこにゃん」に勝てるかなあ？

補助金を使うという事例が紹介されたけど、補助金があるから伊野にやって来るという人たちは、あなたたちが友だちになりたいと思う人たちかな？ キャラクターがかわいいから遊びにくるといふ人たちはあなたたちが伊野に住んでほしいという人たちかな？

コソコソ楽しめる場所

古民家カフェをつくり若者をひきつける、という提案があったけど、まず、伊野の人たちがコソコソ楽しめる場所をつくるのが最初。みんなだって、大人の目がとどかないところでコソコソしたいでしょ。大人もねえ、みんなが知らないところでコソコソして楽しみたいんです。そういう場所ができて、コソコソ楽しんでいるという情報がもれて、それを聞いた人がやって来るようになるといいですね。

伊野にしかない野菜や食べ物

都会の人はふつうの野菜に飽きています。黄色い人参で曲がったものとか、よそではできない伊野独特の野菜とか食べ物に価値があります。昔は育てた野菜から種をとり、それを翌年まくということを繰り返していました。これが伝統野菜です。今売られている種は遺伝子改良がしてあり、種をとってまいても芽がでないものもあります。しぼ入りチマキ「しぼたん」はいいですね。